

## 【2021 年度入学生】

### 常磐大学における学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） .....	2
教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） .....	2
人間科学部 .....	3
心理学科 .....	3
教育学科 .....	4
現代社会学科 .....	6
コミュニケーション学科 .....	7
健康栄養学科 .....	8
総合政策学部 .....	9
経営学科 .....	10
法律行政学科 .....	10
総合政策学科 .....	11
看護学部 .....	11
国際学部 .....	13
経営学科 .....	13
英米語学科 .....	14
コミュニティ振興学部 .....	15
コミュニティ文化学科 .....	15
地域政策学科 .....	16
ヒューマンサービス学科 .....	16

## 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学の学則等に示された教育の理念・教育の方針・教育の目的等を理解して広く深い教養と知識を学んだ後、社会や地域に貢献するための社会適応力および社会活動力を身に付けた人材を養成します。

- ① 目的意識を持って精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。
- ② グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題を捉え、その問題解決に真摯に取り組むことができる。
- ③ 集団の中で状況に応じて自分の役割を意識し、役割遂行に向けて最善の努力を惜しまず、積極的に柔軟性を持った思考力を身に付けている。
- ④ プロジェクト型の取り組みで企画を創造的に立案し、チームワークを高めることに貢献して目標達成に向けて真摯に努力することができる。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学の学則等に示された教育の理念・教育の方針・教育の目的等と養成したい学生像に基づき、全学生を対象とする全学共通科目とそれぞれの学部・学科の教育目標にあわせた学科専攻科目を2つの大きな柱として、それぞれの学部・学科に合わせたカリキュラムを編成します。

- ① 現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身に付けるとともに、幅広い視点から物事を判断する知識を修得するため、多様でかつ調和がとれた教養教育を実施する。
- ② 国際共通語としての英語に焦点を当て、一人ひとりが段階的に学べるように英語科目を編成する。
- ③ 大学での学びの基礎として、「読む・聴く」「書く・語る・伝える」「調べる」といった基本技法、統計によりデータを的確に集めてまとめる手法、そして、コンピュータで情報を分かりやすく整理し表現するスキルが身に付くための初年次教育を実施する。
- ④ 基礎・応用・発展を明確にするカリキュラム分類コードによる系統的な学習と、自由なカリキュラム構築による学際的な学習を実施する。
- ⑤ 問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する。

### ディプロマ・ポリシー

本学部は人間科学に基づく教養、基本的知識を駆使し、批判精神、倫理観、責任感をもって問題を発見し、その解決を図ることができる人材を養成します。同時に、各学科の専門性に基づく高度な専門的知識と応用能力を実践することによって国際化する社会の各分野で活動してその進展と福祉の増進に貢献できる人材を養成します。

- ① 人文科学、社会科学、自然科学の諸領域にわたる広く深い教養と基礎的な知識を身に付け、各学科の専門性および人間科学の枠組みで総合的に理解している。(知識・理解)
- ② 人間に関わる諸問題、とりわけ、心理や行動の発達、教育、社会や福祉、コミュニケーション、健康と栄養に関わる諸問題を発見し、批判的に考え、多面的な思考と分析によつて的確な判断を下すことができる。(思考・判断)
- ③ 人間科学に基づく高い倫理観を持ち、自らの社会的責任を理解し、自らが率先して行動する態度を身に付けている。(態度)
- ④ 各学科の専門性に基づく高度な専門的知識と応用・実践能力を修得し、課題解決のための具体的方策を提示し、これを実行できる技能を身に付けており、それによって社会に貢献することができる。(技能、知識・理解、思考・判断)

### カリキュラム・ポリシー

本学部では、「人間とは何か」という根本的な問題にアプローチすると同時に、人間や人間社会の諸問題を解決する力を身に付けることができるようなカリキュラムを編成します。また、広い視野から人間に関する専門的な教育を行うためのカリキュラムを編成します。

- ① 広い視野から人間や人間社会に関する理解の基礎を修得するため、学部基本科目を編成し、学部共通科目内に配置する。
- ② 心理や行動の発達、教育、社会や福祉、コミュニケーション、健康と栄養に関わる専門的知識を修得するため、心理学科、教育学科、現代社会学科、コミュニケーション学科、健康栄養学科に、それぞれ学科専攻科目を編成する。
- ③ 各学科の専門性に基づく応用・実践能力を修得するため、各学科の学科専攻科目内に演習関連科目および実習科目を配置する。
- ④ 学部基本科目と学科専攻科目を通して修得した、人間科学および各学科の専門性に基づく基本的・専門的知識を、学生個々人の興味・関心に応じて応用・発展させ、より高度な専門的知識と応用能力を修得させるため、卒業研究に関する科目を編成し、少人数制のゼミナール・卒業論文を、それぞれ3年次・4年次に配置する。

## 心理学科

### ディプロマ・ポリシー

多くの人が様々な心理的な問題を抱えて社会に適応しにくくなっていたり、自分のもっている心理的な能力を十分に発揮できなくなっていたりする現代、人間の感覚や知覚、記憶、学習、思考、性格、認知、発達など、いわゆる「心」といわれる人間の様々な働きを科学的に理解し、さらに理解したことを駆使して、人間が社会のなかで、より、自己を実現できるようになることに寄与することのできる人材を養成します。

- ① 人間にアプローチするための科学的な心理学的方法を理解することができる。(知識・理解)
- ② 科学的な心理学的方法を駆使して、人間の諸行動や諸現象に関する基本的な心理的過程やメカニズムを理解することができる。(技能)
- ③ 人間の不適応行動、問題行動および病理等の心理的過程やメカニズム、および諸能力を発揮する方略を理解することができる。(思考・判断)
- ④ 前記各項の学修事項を駆使し、総合的に人間のよりよい社会的適応および諸能力の発揮に実践的に寄与することができる。(態度)

## カリキュラム・ポリシー

### (1) 教育内容（編成方針）

人間の「心」に科学的にアプローチしてこれをよく理解し、そしてその知識を適切に用いてさまざまな問題に実践的に取り組んで解決を目指すことができ、さらにそれらについて他者にも的確に説明することができるようになることを目指して、単に知識を身に付けるだけでなく、研究法および実験や実習科目を通じて、実践的に心理学的な問題に取り組む姿勢を身に付けられるためのカリキュラムを体系的に編成します。

### (2) 教育方法（実施方針）

#### 【1年次】

- ① 全学共通科目、学部共通科目では、大学で学ぶための基本的な技能と知識を身につけます。
- ② 学科専攻科目のうち学科基本科目では、科学的な心理学の方法を身につけるために、心理学概論、心理学史、心理学統計法などの基礎科目を徹底して学びます。

#### 【2年次】

学科専門科目では、人間の基本的な心理的過程やそれらが複合して起こる諸行動、人間関係にみられる諸現象を理解するために、心理学実験、心理学研究法、および心理学統計法など基本的な科目から応用・発展的な科目(学科選択科目)を幅広く学びます。

#### 【3年次】

- ① 学科専門科目では、2年次に習得した知識や理論、技能をもとに、自身の専門領域にかかわる問題意識を深めます。
- ② 臨床心理学領域(公認心理師受験資格希望学生含む)を志す学生は、不適応行動、問題行動および病理等の理解とその解決、および諸能力の発揮等に関する科学的な理解を促進するための発展的な科目を選択し、これらを実践的に学びます。
- ③ 「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」では、ディスカッションやグループワークを通して専門領域の知識および卒業研究の基礎的技能を深めます。

#### 【4年次】

- ① 学びの集大成として、「卒業論文Ⅰ」「卒業論文Ⅱ」では、研究テーマを自身で設定し、これまで得た知識を実践的に生かせる力を身に着けます。
- ② 「卒業論文Ⅱ」では中間発表会、完成発表会を全学科及び全学年対象に公開する形で実施する機会を用意します。

## 教育学科

### (初等教育コース)

## ディプロマ・ポリシー

教育活動を担うにあたり必要となる基本的資質・素養、及び、高度専門職としての教育者に求められる力量を身につけ、教育をめぐる現代的課題に対応し、実践的指導力をもって幼児・児童の成長を支援する公立・私立の幼稚園・小学校の教員や教育に関する十分な知識と技能により解決策を見出す自治体・民間機関等の職員等を養成します。

- ① 教育活動に必要な社会人としての素養、及び、教育者としての素養を併せて習得している。(技能、態度)
- ② 幼稚園教育要領及び学習指導要領の内容、授業を成立させるための要件、領域・教科の詳細等に関する専門的知識と共に、授業における学習課題、主体的・対話的で深い学び、ICTの活用等を理解し、道徳教育の基本も踏まえた実践的指導力を伴う授業力を身につけている。(知識・理解、技能)
- ③ 幼児・児童の心身の発達、いじめの実際、教育相談、幼児・児童の指導、キャリア教育について理解し、公平かつ受容的・共感的な態度をもち、幼児・児童を理解し指導する力を身につけている。(知識・理解、態度)
- ④ 特別な配慮を必要とする幼児・児童を理解し支援する力を身につけている。(知識・理解、技能)
- ⑤ 学級経営を理解し、学年や学級を経営する力を身につけている。(知識・理解、技能)
- ⑥ 学校等の組織で協働や運営に主体的に関わり、安全管理を理解し、関係者の安心・安全を常に意識

し対応する力を習得している。(知識・理解、態度、思考・判断)

## カリキュラム・ポリシー

教育学科初等教育コースでは本学の建学の精神、教育理念、教育研究上の目的等に基づき、卒業の認定に関する方針(卒業認定・学位授与の方針、ディプロマ・ポリシー)に掲げる能力(学修成果)を学生が身につけるため、以下に示すとおり教育課程を編成し、実施します。

### (1) 教育内容(編成方針)

教育活動を担うにあたり必要となる基本的資質・素養、及び、高度専門職としての教育者に求められる力量の修得に向け、また幼稚園教諭一種免許状および小学校教諭一種免許状の取得要件を満たすための履修系統を設定します。

### (2) 教育方法(実施方針)

履修系統別の目標を設定し、かつ、少人数できめ細やかな教育体制、充実した教育実習事前指導、現職経験者による実際の教育現場に即した授業展開、幅広い教員採用試験対策等を通して、実践的指導力のある教育者を養成するカリキュラムを以下に示すとおり編成します。

#### 【1年次】

主に、各領域・教科の専門的な内容、及び、教育の基礎的な理解を身につけると共に、幼児・児童への働きかけに必要な知識や技能を学ぶ科目を編成する。

#### 【2年次】

主に、保育内容・教科ごとの指導法で各領域・教科ごとの教え方を学び、模擬保育・模擬授業に取り組むことで、実践的指導力を身につける科目を編成する。

#### 【3年次】

主に、実習園・実習校での教育実習を行う等、実際の教育現場で経験を積むと共に、教員採用試験等に備えて教育に関する知識の定着を図る科目を編成する。また、教育学の学びで身につけた資質・能力の有機的結合を深化させるために「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」を設定する。

#### 【4年次】

主に、教員採用試験の受験や実際の教育現場での活動に向けて思考力や表現力を高める科目を編成する。また、4年間の学びの集大成として、自分の専門領域に関する理解を深め、教育をめぐる現代的課題に対応する力を身につけるために「卒業論文Ⅰ」「卒業論文Ⅱ」を設定する。

## (中等教育コース)

## ディプロマ・ポリシー

教育活動を担うにあたり必要となる基本的資質・素養、及び、高度専門職としての教育者に求められる力量を身につけ、教育をめぐる現代的課題に対応し、実践的指導力をもって生徒たちの成長を支援する公立・私立の中学校・中等教育学校・高等学校の教員や教育に関する十分な知識と技能により解決策を見出す自治体・民間機関等の職員等を養成します。

- ① 教育活動に必要な社会人としての素養、及び、教育者としての素養を併せて習得している。(技能、態度)
- ② 学習指導要領の内容、授業を成立させるための要件、社会科・地理歴史科の詳細等に関する専門的知識と共に、授業における学習課題、主体的・対話的で深い学び、ICTの活用等を理解し、道德教育の基本も踏まえた実践的指導力を伴う授業力を身につけている。(知識・理解、技能)
- ③ 生徒の心身の発達、いじめの実際、教育相談、生徒指導、キャリア教育について理解し、公平かつ受容的・共感的な態度をもち、生徒を理解し指導する力を身につけている。(知識・理解、態度)
- ④ 特別な配慮を必要とする生徒を理解し支援する力を身につけている。(知識・理解、技能)
- ⑤ 学級経営を理解し、学年や学級を経営する力を身につけている。(知識・理解、技能)
- ⑥ 学校等の組織で協働や運営に主体的に関わり、安全管理を理解し、関係者の安心・安全を常に意識し対応する力を習得している。(知識・理解、態度、思考・判断)

## カリキュラム・ポリシー

教育学科中等教育コースでは本学の建学の精神、教育理念、教育研究上の目的等に基づき、卒業の認定

に関する方針（卒業認定・学位授与の方針、ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力（学修成果）を学生が身につけるため、以下に示すとおり教育課程を編成し、実施します。

#### (1) 教育内容（編成方針）

教育活動を担うにあたり必要となる基本的資質・素養、及び、高度専門職としての教育者に求められる力量の修得に向け、また中学校教諭一種免許状（社会）および高等学校教諭一種免許状（地理歴史）の取得要件を満たすための履修系統を設定します。

#### (2) 教育方法（実施方針）

履修系統別の目標を設定し、かつ、少人数できめ細やかな教育体制、充実した教育実習事前指導、現職経験者による実際の教育現場に即した授業展開、幅広い教員採用試験対策等を通して、実践的指導力のある教育者を養成するカリキュラムを以下に示すとおり編成します。

##### 【1年次】

主に、社会科・地理歴史科の専門的な内容、及び、教育の基礎的な理解を身につけると共に、生徒への働きかけに必要な知識や技能を学ぶ科目を編成する。

##### 【2年次】

主に、社会科・地理歴史科の教育法で社会科・地理歴史科の教え方を学び、模擬授業に取り組むことで、実践的指導力を身につける科目を編成する。

##### 【3年次】

主に、実習校での教育実習を行う等、実際の教育現場で経験を積むと共に、教員採用試験等に備えて教育に関する知識の定着を図る科目を編成する。また、教育学の学びで身につけた資質・能力の有機的結合を深化させるために「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」を設定する。

##### 【4年次】

主に、教員採用試験等の受験や実際の教育現場での活動に向けて思考力や表現力を高める科目を編成する。また、4年間の学びの集大成として、自分の専門領域に関する理解を深め、教育をめぐる現代的課題に対応する力を身につけるために「卒業論文Ⅰ」「卒業論文Ⅱ」を設定する。

## 現代社会科学科

### ディプロマ・ポリシー

現代社会を構成する様々な人間と社会を幅広く理解した上で社会現象を総合的に認識することができ、人間科学と社会科学の視点を活かしながら、健全な倫理観に基づく批判精神を発揮して同時代の問題に主体的に取り組み福祉社会を創造することができる人材を養成します。

- ① 様々な地域や国々についての歴史的・文化的な理解ができ、異文化や「他者」への想像力を伴った、21世紀に生きる人間に求められる相対的なものの見方を身に付けている。また、関連諸科学の知識を活かし、自己と社会の関わりについての認識を深めることができる。（知識・理解）
- ② 現代社会の諸現象と変化を捉えるための情報を的確に収集し、それらを社会科学の視点で読み解くことができる。（思考・判断）
- ③ 現代社会の諸問題への関心を深め、それらに取り組んでいく主体性、健全な批判精神、倫理観を身に付けている。（態度）
- ④ 現代社会の課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考えることができる。（技能、知識・理解、思考・判断、態度）

### カリキュラム・ポリシー

#### (1) 教育内容（編成方針）

大学入学後の導入教育を重視しながら、段階的に高次の知識や技術を身に付けていくことを可能にするカリキュラムを編成します。また、知識の修得という側面だけでなく、実証的な研究方法の修得や社会や地域との関わりを重視し、現代社会や福祉を総合的に捉えることのできる能力の涵養を目指したカリキュラムを編成します。

- ① 現代社会や福祉に関する専門的知識および応用的知識を体系的に学ぶために、調査法など現代社会を理解するための方法論に関する分野について複数の関連科目を配置し、基礎から応用へと段階的な学修ができるカリキュラムを編成する。

- ② 学科専門科目の基礎的知識の理解に加え、問題の解決に取り組む実践力を身に付けるために、教室内での教育だけでなく、社会調査実習（フィールドワーク）、社会の安心・安全に関わる分野の演習、社会福祉や福祉臨床に関わる現場での演習・実習など、学外での授業科目を多数配置し、社会の現実、社会安全や社会福祉の現場に触れるカリキュラムを編成する。
- ③ グループ討論やグループワークを重視した指導方法を通して、「社会的存在としての人間」、「他者と共に生きていく人間」を実感的に認識でき、その実践的能力を涵養する学修機会を用意する。
- (2) 教育方法（実施方針）

#### 【1年次】

- ① 全学共通科目、学部共通科目では、大学で学ぶための基本的な技能と知識を身につけます。
- ② 学科基本科目では、社会学の見かた、現代社会を理解するための方法論の基礎的知識を学びます。
- ③ 全学教養科目と学科専攻科目では、現代社会の諸問題への視野を広げるための基盤となる、幅広い知識を学びます。

#### 【2年次】

- ① 学科基本科目では、一年時に学んだ内容からさらに踏み込んで、社会学の見かた、現代社会を理解するための方法論の知識を深めます。
- ② 学科専攻科目（講義科目）では、現代社会の諸問題、社会現象について応用的な知識を習得し、自分の問題関心の方向性を見定めます。
- ③ 学科専攻科目（演習科目）では、習得した知識や理論をもとに、自ら文献・データを収集し活用する、自らソーシャルワークに関わるための、基礎的スキルを身につけます。

#### 【3年次】

- ① 学科専攻科目（講義科目）では、現代社会の諸問題、社会現象について発展的な知識を習得し、自分の専門領域に関する問題意識を深めます。
- ② 学科専攻科目（演習・実習科目）では、学外での授業を通して、自ら文献・データを集めるための技能、自らソーシャルワークに関わるための技能を、実践的に取得します。
- ③ 「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」では、グループ討論、グループワークを通して、自分の専門領域について、理解を深めます。

#### 【4年次】

- ① 学科専攻科目（実習・演習）では、学外での授業を通して、職業人として求められる実践的能力を身につけます。
- ② 4年間の学びの集大成として、「卒業論文Ⅰ」「卒業論文Ⅱ」では、グループ討論、グループワークを通して、社会科学の視点で自分のテーマにアプローチします。自分の課題とした社会現象について理解を深め、課題の改善、解決の方策を考えます。

## コミュニケーション学科

### ディプロマ・ポリシー

本学科のコミュニケーション学は、人間や組織が考え感じたことを伝える側面と、受け取る側面とを分析的に探求する社会心理学、言語学、社会学などの学問領域と、人が表現したい内容を的確に表現する構想力とそれを支えるグラフィック技術、映像技術、プログラミング技術を探求する学問領域とが交差するところに成立しています。また、多様な文化や考え方、英語の構造、国際コミュニケーション手段としての英語を科学的に探求する学問領域では、言葉の背景にある文化や歴史を理解し、幅広い教養と国際感覚に裏付けされた英語コミュニケーション能力を身に付けることができるようになっています。在学中に修得した知識・技術を用いて、情報社会、国際社会の一員としての自分の立場や考え方を認識し、コミュニケーションに対して学問的な幅広い観点から考える態度を身に付け、得た情報を批判的に読み解き、自分の考えを説明することができる人材を養成します。

- ① 情報社会におけるメディアとコミュニケーション、国際社会における外国の人々とのコミュニケーション現象に幅広く関心を持つことができる。(知識、態度)
- ② 自分の卒業研究・卒業制作についてコミュニケーション学の観点から説明することができる。(知識、技能)
- ③ 日常生活の中で出会う情報を批判的に読み解き、多面的に判断することができる。(思考・判断、技

能)

- ④ 科学的な知見を基礎とした他者との円滑なコミュニケーションによって、家庭にあっても、地域社会にあっても、企業にあっても、情報化、国際化する社会の中で一定の役割を果たすことができる。  
(知識、思考・判断、態度、技能)

## カリキュラム・ポリシー

本学科では、情報社会、国際社会におけるコミュニケーションの過程をコミュニケーション学に基づいて分析し、そこから得られた知見を現実社会で活用できる人材を育成するため、以下の通り体系的な教育課程を編成し、実施します。

### (1) 教育内容（編成方針）

コミュニケーションという現象を分析するとともにコミュニケーションすべき内容を的確に表現するための構想力と技術力を養成する領域、英語でのコミュニケーション能力を育成する領域を学ぶことができるよう、学科基本科目、メディアコミュニケーション領域科目、グローバルコミュニケーション領域科目、卒業研究科目の4つからなるカリキュラムを編成します。

1. 学科基本科目には、コミュニケーションの多様な側面に関心を持つための入門的《削除》科目と、的確なコミュニケーションを行うための技能の基礎を学ぶ《削除》科目を配置する。
2. メディアコミュニケーション領域科目には、メディアとコミュニケーションに関わる知識の修得と技能の育成のために、研究法、社会心理学、言語コミュニケーション、マス・コミュニケーション、メディアコミュニケーションに関する科目《削除》、コミュニケーションに必要な構想力と技術力に習熟するために、映像、グラフィックデザイン、ウェブデザイン、プログラミングに関する科目を配置する。
3. グローバルコミュニケーション領域科目には、英語でのコミュニケーション技能の育成のために、言語の構造に関する知識、言語を取り巻く文化や歴史に関する知識、幅広い教養と国際感覚、英語運用技能、日本語教師養成に関する科目を配置する。
4. 卒業研究科目には、大学での学修の集大成として卒業論文制作や作品制作を行うための科目であるゼミナールと卒業論文を配置する。

### (2) 教育方法（実施方針）

本学科では、ディプロマポリシーに掲げた人材を育成するために段階的な教育方法を実施します。

#### 【1年次】

コミュニケーションとメディア、英語の基礎を学びます。コミュニケーションの基礎理論、メディアを通じたコミュニケーションの実践力を培う科目、英語および日本語での円滑なコミュニケーションや異文化理解を深める科目を中心に幅広く深い教養を培い、コミュニケーション学の基礎的知識を身につけます。

#### 【2年次】

演習形式の学科基本科目において、コミュニケーション研究の基礎、発表技能を習得します。さらに各々の関心にあわせて、講義科目では主にコミュニケーション学、演習科目では英語とメディア表現をより深く学び、応用的能力を養います。

#### 【3年次】

演習科目や実習科目で、メディアを通じたコミュニケーションの、あるいは英語によるコミュニケーションの発展的能力を養います。また「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」では、1・2年次の勉学をさらに進展させるとともに、大学での勉学の集大成としての卒業論文および卒業制作の作成に向けた知識と技術を身につけます。

#### 【4年次】

4年間の学びの集大成としての「卒業論文Ⅰ」「卒業論文Ⅱ」を中心として、グループ討議や発表などの演習を通じて、各自のテーマを深めながら、論文や作品にまとめていきます。

## 健康栄養学科

### ディプロマ・ポリシー

21世紀の栄養ケア・マネジメントは、対象者個人の栄養状態、健康状態の把握はもちろんのこと、生活

習慣全般を認識した対応と、他のスタッフとの連携（多職種協働）を取りながら一連のマネジメントを手がけ多角的な物事の判断によって、人間そのものを把握し受け止めることのできる能力が求められる。本学科では、対象者1人ひとりの問題発見からその解決を導くために、十分な基礎能力と幅広い知的バックグラウンドを有し、さらに高度な専門知識と対人コミュニケーション能力と共に生活習慣病対策の任務を担う者として、病気発生そのもののメカニズムを知る基礎力を付け、生活習慣と病気の関係を十分に理解できる人材を養成します。

- ① 栄養ケア・マネジメントの基本が“人間栄養”であることを理解している。(知識・理解)
- ② 生命維持に関して、食物および栄養の意義を理解している。(知識・理解、思考・判断)
- ③ 生活習慣病予防の担い手として、コ・メディカル知識やコミュニケーション能力等を生かし、適正な栄養ケア・マネジメントができる。(思考・判断、態度・技能)
- ④ 豊かな教養と専門知識を持ち、多職種協働の中で力を発揮できる。(思考・判断、態度・技能)

## カリキュラム・ポリシー

### (1) 教育内容（編成方針）

疾病にも関係する栄養ケア・マネジメントの立場から、職場における個々の対象者あるいは協働作業者に接するため、教養・専門知識は勿論コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力なども必要とします。

以上のことから次のような特徴的なカリキュラムを編成します。

### (2) 教育方法（実施方針）

#### 【1年次】

- ① 理数系科目強化のため、1年次に教養科目の化学系科目および生物系科目《削除》を必須としている。
- ② 人体と病気の関係を学ぶための臨床医学、解剖生理学、病理学などコ・メディカル科目を、専門科目の4割配置する。

#### 【2年次】

病院・福祉施設・保健所などの現職の管理栄養士を職場から招き、仕事内容、対象者との接し方を知り、人々の健康増進・疾病予防へ貢献するための意識づくりの機会を提供している。

#### 【3年次】

専門科目の各分野に、演習科目および実験実習科目と学外施設での臨床栄養臨地実習、公衆栄養臨地実習、および給食経営管理臨地実習を配置し、協働作業の中から、協調性、コミュニケーション能力を養成する。

#### 【4年次】

- ① ゼミナールおよび卒業研究で研究方法を学び、学会形式での公开发表会を設定し、プレゼンテーション能力《削除》を養成する。
- ② 管理栄養士国家試験に備えて栄養ケア・マネジメントに関する専門知識、実践力の定着を図る科目を編成する。

## 総合政策学部

## ディプロマ・ポリシー

幅広い観点からの知識を蓄え、現代社会の諸問題に対して、正当に評価できる能力と、解決策を導き提言・提案できる能力を有し、グローバル化する社会に貢献できる実践的能力を備えた人材を養成します。

- ① 広範な教養と知識を身に付け、社会での活用方を創造することができる。(知識・理解)
- ② 変容する社会の諸問題を柔軟な思考で捉え、多面的な視野で判断し、課題発見、課題解決に取り組むことができる。(思考・判断)
- ③ 諸分野の協働が求められる社会の中で、自らの役割を認識し、自主的に活動する真摯な姿勢を身につけている。(態度)
- ④ 専門的知識を統合的に応用し、政策の立案・提言により社会に貢献できる実践的能力を備えている。(技能)

## カリキュラム・ポリシー

社会の諸問題を把握し、その解決策を提示できる人材を育成するため、かつ、ディプロマ・ポリシーで明示した成果を実現するために、基礎から専門までの幅広い知識・技能を体系的に修得するカリキュラムを編成します。

- ① 基礎的、総合的知識の修得のため、学部共通科目として、教養科目、語学科目、全学基本科目を配置する。
- ② 修得した知識を社会で活用できる能力を身に付けるため、学部共通科目として、キャリア教育科目、特別企画科目、学部基本科目を配置する。
- ③ 経営、経済、法律、行政、政治、地域、観光に関連する、専門的知識を修得するため、各学科に学科専攻科目を編成する。
- ④ 学部共通科目・学科専攻科目を通じて修得した基本的・専門的知識を基に、実践的な力を身につけるための少人数教育であるゼミナールと卒業論文を必修とする。

## 経営学科

### ディプロマ・ポリシー

経営（マネジメント）の観点から、グローバル社会の中で企業等が直面している諸問題に取り組み、その具体的な解決策を提示できる能力を備えた人材を養成します。

- ① 基本的語学力、情報処理能力を修得し、経営、マーケティングおよび財務・会計に関する基礎知識について説明できる。（知識・理解）
- ② グローバル化する社会にあつて、経営（マネジメント）という観点から課題を解決する調整能力を備えている。（思考・判断）
- ③ 実務に対応した専門性を高めようとする真摯な態度と意欲を身につけている。（態度）
- ④ 地域経済において直面する問題を解決するコミュニケーション能力とリーダーシップを備えている。（技能）

### カリキュラム・ポリシー

「ディプロマ・ポリシー」で明示した学修成果を実現するため、「教育研究上の目的」に沿ったカリキュラムを編成します。全体の構造としては、社会科学一般の学問を基礎としながら、「経営・マネジメント分野」、「商業・マーケティング分野」、「財務・会計分野」の3つの専門分野の学科専攻科目を編成します。

- ① 学生が自らの志望する進路に合った専門分野を、重点的に履修する事ができるようにするため、学科専攻科目を3つの専門分野にわたり、概ね均等に配置する。
- ② 将来のビジネスリーダー育成という観点から、どの専門分野に関しても一定水準の基礎知識を身に付けるため、3分野それぞれの基本的な科目を必修科目として配置する。
- ③ 実社会で求められる実践的能力を効果的に身に付けるため、実習科目を1年次から3年次に配置する。
- ④ 専門分野に関するより高度な内容を実践的に身につけるために、3年次の「ビジネス専門演習」は、3つの専門分野別にクラスを分けて実施する。

## 法律行政学科

### ディプロマ・ポリシー

法的思考能力（リーガルマインド）を基礎として、法制度を理解し、安心・安全な社会の実現のために活動している諸機関において活躍できる人材を養成します。

- ① 法律・行政に関する基礎的知識を身につけ、社会の実態を広い視野から理解することができる。（知識・理解）
- ② 法制度と行政をめぐる様々な現代的問題について、論理的思考に基き、適切な対応を提案することができる。（思考・判断）
- ③ 安心・安全な社会の実現に向けて主体的に取り組む姿勢と、多面的総合的に判断する公平性を身につけている。（態度）

- ④ 社会に貢献するための、法的思考能力（リーガルマインド）と政策立案能力を備えている。（技能）

## カリキュラム・ポリシー

「ディプロマ・ポリシー」で明示した学修成果を実現するため、「法律行政分野」、「社会安全分野」の2つの専門分野で学科専攻科目を編成します。また、関連科目には、「防災、リスクマネジメント」に関する科目を配置します。

- ① 専門分野の基礎的科目として学科基本科目を配置し、法律・政治・行政に関する科目を必修科目とする。
- ② 法律行政分野の学科専門科目では、社会の実態に即して、法学を体系的・発展的に学修する科目で編成する。
- ③ 社会安全分野の学科専攻科目では、犯罪情勢や地域の防犯活動など、社会安全に関連する幅広い科目を配置する。
- ④ 実践的な問題解決能力の修得をサポートするため、教員と学生の双方向で展開するラーニングアクティビティを重視した授業を実施する。

## 総合政策学科

### ディプロマ・ポリシー

学際的・総合的観点から、地域の官民の諸機関において、地域社会が直面している諸問題に取り組み、その具体的な解決策を提示することのできる人材を養成します。

- ① 政治・経済に関する基礎的知識を身に付け、各分野における政策形成の過程を理解している。（知識・理解）
- ② 諸問題を考察し、実践的なプロセスにより問題解決に導く提案ができる。（思考・判断）
- ③ 地方を創生し活性化する必要性と重要性を認識し、地域社会の中でリーダーシップを発揮することで地域社会のニーズに応える姿勢を身につけている。（態度）
- ④ 多分野に関連し複雑化する諸問題に対し、グローバル的、総合的な視点から解決策を提案できる能力を備えている。（技能）

### カリキュラム・ポリシー

「ディプロマ・ポリシー」で明示した学修成果を実現するため、「政治・行政分野」、「経済・経営分野」の2分野で編成した科目に加え、関連科目では、「地域、観光」に関する科目を配置します。

- ① 学科の学修の基盤となる科目として、学科基本科目を配置し、法律・経済・政策に関する科目を必修科目とする。
- ② 地域社会の諸問題を、政治経済の側面から理解し、さらに各分野の政策を学修するため、「政治行政分野」「経済経営分野」を基本分野として科目を編成する。
- ③ 政治・行政、経済・経営の各分野に、総合政策演習を配置し、問題解決力を身に付けるための、実践的プロセスを重視した授業を実施する。
- ④ 関連科目に、地域と地域資源の活用や観光に関する科目を配置し、幅広く地方の創生を学修するカリキュラムを編成する。

## 看護学部

### ディプロマ・ポリシー

建学の精神に基づき、看護学の専門的知識と実践力を有し、保健・医療・福祉・教育等の場において、人々の健康な生活の保持増進に関わり、広く社会に貢献できる看護系人材を養成する。

- ① 多様な価値観を認め、あらゆる人々を尊重する態度で倫理的に行動できる。
- ② 自己を見つめ、主体的・自律的に行動することができ、専門職業人として看護学の発展に寄与していく姿勢を備えている。
- ③ 看護職の役割と責任を担うために、保健・医療・福祉・教育における専門職間協働の必要性を理解できる。

- ④ 複雑化する社会の中で看護を必要とする個人・家族・地域の諸課題を発見し、根拠に基づいた柔軟な思考で看護実践ができる。
- ⑤ グローバルな視野を持ち、地域が直面する健康課題の解決に応用できる。

## カリキュラム・ポリシー

基礎、応用、発展の展開と各看護領域における連続性を高めた科目構成により、効率性ある学修を実現し、体系的な看護学の教育課程を編成する。

- ① 学部共通科目、学科基礎科目、学科専門科目の3科目群でカリキュラムを編成し、基礎科目から専門科目を積み上げ方式で学習できるよう科目を配置する。
- ② 学部共通科目は、教養科目、語学科目、全学基本科目、キャリア教育科目、特別企画科目で構成する。広範な視野やグローバルな視点を身に付けるための教育、初年次教育、キャリア教育、プロジェクト型教育（海外研修含む）等を展開する。
- ③ 学科基礎科目は、「人間の身体と生命科学分野」「人間のこころと行動科学分野」「人間の社会と環境科学分野」の3科目群で構成し、看護実践の基盤となる知識を身に付けるための科目を配置する。
- ④ 学科専門科目は、「看護の基盤」「生涯発達と看護」「コミュニティと看護」「看護の統合と発展」の4科目群で構成する。各看護領域の科目を講義、演習、実習科目と配置することで、知識に基づく技能を修得するための学修課程を編成する。
- ⑤ 学修方法として、ディプロマ・ポリシーに定めた人材の育成を実現するため、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れる。

### ディプロマ・ポリシー

豊かな教養と人間性を基礎に、グローバル化する社会に不可欠なコミュニケーション能力とマネジメント能力をもとに、国際社会のみならず地域社会においてもリーダーシップのとれる行動力ある人材を養成します。

- ① 国際社会のしくみや課題を理解し、その歴史や文化について説明することができる。
- ② グローバル化する社会の中で、自分自身を成長させようとする向上心を身に付けている。
- ③ グローバル化する社会の中で生起する様々な課題に対し、一方に偏ることなく多面的に思考・分析することでの確かな判断を下すことができる。
- ④ 社会で通用するコミュニケーション能力と、課題解決のための具体的方策を提示しこれを実行するための技能を修得している。

### カリキュラム・ポリシー

グローバル化する社会で生起する様々な課題や問題点を的確に把握し、かつ、ディプロマ・ポリシーで明示した学習成果を達成するために、基礎から応用に至るまで学科目を系統別・分野別に配置し、有機的で「学びの視点」に立ったカリキュラムを編成します。

- ① 将来の進路を配慮し、かつ着実な学修成果を得るために、より特化した「専門」分野を編成する。
- ② いずれの「専門」分野を専攻しても一定水準の基礎的知識が身に付くように、基本的な学科目や重要科目を必修科目として配置する。
- ③ 実践的能力が身に付くように、演習科目や実習科目を多数配置する。
- ④ 学習効果をあげるために、習熟度別のクラスや少人数のクラスを編成する。

## 経営学科

### ディプロマ・ポリシー

学則に定められている本学科の「養成したい人材像」にあるように、本学科の学生は卒業時に、幅広い教養を基礎として、さらに専門的なマネジメント知識、ビジネススキルを修得していることが求められています。また、社会の期待に応えるべく、実力のある社会人としてリーダーシップを身に付けている人材を養成します。

- ① 基本的語学力、情報処理能力を修得し、経営、マーケティングおよび財務・会計に関する基礎知識について説明できる。
- ② 実務に対応した専門性を高めようとする真摯な態度と意欲を身に付けている。
- ③ グローバル化する社会にあって、経営（マネジメント）という観点から課題を解決する調整能力と国際的なバランス感覚を備えている。
- ④ 地域経済において直面する課題を解決する、コミュニケーション能力とリーダーシップを備えている。

### カリキュラム・ポリシー

「ディプロマ・ポリシー」で明示した学習成果を実現するため、学則に定められている本学科の「教育研究上の目的」に沿ったカリキュラムを編成します。全体の構造としては、社会科学一般の学問を基礎としながら、「経営・マネジメント分野」、「商業・マーケティング分野」、「財務・会計分野」の3つの専門分野の学科専攻科目を編成します。

- ① 学生が自らの志望する進路に合った専門分野を重点的に履修することができるようにするため、学科専攻科目を3つの専門分野にわたりほぼ均等に配置する。
- ② 将来のビジネスリーダー育成という観点から、どの分野に関しても一定水準の基礎知識を身に付けられるようにするため、3つの専門分野それぞれの基本的な科目を必修科目として配置する。
- ③ 実社会で求められる実践的能力を効果的に身に付けることができるようにするため、1年次から3年次のそれぞれに実習科目を配置する。
- ④ 専門分野に関するより高度な内容を実践的に身に付けるために、3年次の「ビジネス専門演習」は、3つの専門分野別のクラスに分けて実施する。

## 英米語学科

### ディプロマ・ポリシー

学則に定められている本学科の「養成したい人材像」にあるように、本学科の学生は卒業時に、単に流暢に英語を話すのではなく、言語の背景にある文化や歴史を理解した上で、教養に裏付けされた内容豊かなコミュニケーションができ、常に国際化する社会の一員としての自分の立場や考え方を認識できる人材を養成します。

- ①英語という言語の背景にある文化や歴史について説明することができる。
- ②外国の人々に対して自分や自国について説明することができる。
- ③外国の人々と積極的にコミュニケーションを図ることができる。
- ④グローバル化する社会において創出される一元的な価値基準に対して、多面的に判断することができる。
- ⑤実社会で活用することができる英語力を持っている。

### カリキュラム・ポリシー

「ディプロマ・ポリシー」で明示した学習成果を実現するため、学則に定められている本学科の「教育研究上の目的」に沿ったカリキュラムを編成します。そのため、コミュニケーション能力を構成する要素を、「言語の構造に関する知識」「言語を取り巻く文化や歴史に関する知識」「幅広い教養と国際感覚」「英語運用スキル」と設定し、それぞれを涵養、統合するカリキュラムを編成します。

- ①英語でのコミュニケーション能力育成のための4分野を設定し、それぞれ必修科目を配置する。
- ②4分野への入門的科目群として「基本分野」を設定する。
- ③英語運用スキルの向上を図るために、演習科目および演習的要素を含む講義科目を多く設定する。
- ④必修の演習科目については習熟度別に少人数クラスで実施する。

## コミュニティ振興学部

### ディプロマ・ポリシー

グローバル化の進展により、国際的な動きとコミュニティとの結びつきが強まる中、地域における課題を発見し、その解決策を模索・提示し、自ら活動していくことで地域社会の振興に貢献できる、人間性と専門的知見を兼ね備えた人材を養成します。

- ① 地域社会及び地域の課題に関する基礎的知識と、地域の発展に不可欠な「文化」「政策」「福祉」といった種々の専門的知識を身に付け、それらの意義について総合的に理解し、広範な視野から見つめる力を持っている。
- ② 地域社会に存在する人材や有形無形の文化財・自然といった様々な財産と、現在発生している様々な地域課題についての思考力を持ち、地域の発展のために状況に応じた適切な選択を行うための判断力を身に付けている。
- ③ 地域社会に対する愛着心と倫理性を身に付け、地域社会の一員という自覚を持ちつつ、地域課題の解決や地域の活性化のために自らが率先して活動を行う態度を身に付けている。
- ④ 地域社会における様々な課題に対して真摯に向き合い、地域の様々な構成員とともに議論することを通じて、解決のための具体的方策を立案し、実行する力を備えている。

### カリキュラム・ポリシー

地域社会の問題を把握し、その振興に寄与できる人材を育成するために、またディプロマ・ポリシーで明示した成果を実現するために、基礎から専門までの幅広い知識・技能を体系的に修得するカリキュラムを編成します。

- ① 地域社会の問題を把握し、地域の活性化に寄与するための基礎的な知識を修得するため、学部基本科目を編成する。
- ② 地域社会の3つの柱である「文化」「政策」「福祉」の専門的知識を修得するため、コミュニティ文化学科、地域政策学科、ヒューマンサービス学科それぞれに学科専攻科目を編成する。
- ③ 地域社会に貢献するための実践的な技能を修得するため、コミュニティ文化学科、地域政策学科、ヒューマンサービス学科それぞれに演習関連科目および実習科目を編成する。
- ④ 学部基本科目・学科専攻科目を通じて修得した基礎的・専門的知識を基に、地域振興のために自ら考え、行動する実践的な力を身に付けるためのゼミナール（3年次）と、それらを集大成して地域振興に関する独自の知見をまとめるための卒業研究（4年次）を編成する。

## コミュニティ文化学科

### ディプロマ・ポリシー

本学の教育理念・方針・目的を基本とし、コミュニティ振興学部の目指す学生像に沿って、人間性と専門的知見を兼ね備えた、社会や地域の文化形成に貢献できる真の「学士力」を有する学生を養成します。

- ① 学修を基礎として、社会や地域における文化の様態を広汎な視野から見詰める力および文化形成に資する基本的知識と理解力を身に付けている。
- ② 社会や地域の実態を分析し、課題や問題を適切に把握できる力を身に付けている。
- ③ 社会や地域に対する責任を自覚し、文化形成を中心とした多様な問題解決に取り組む姿勢と能力を身に付けている。
- ④ 社会や地域における文化の意義・重要性を深く認識し、状況に応じて、その力を発揮する資質を身に付けている。

### カリキュラム・ポリシー

学科の特性を生かし、コミュニティの文化形成に資する「問題発見・解決能力」「企画・創造力」を育成するため、実習や演習を重視した実践型のカリキュラムを編成します。

- ① 学習動機を尊重し、その明確化を支援しつつ、専門的学習へと導くための基礎的カリキュラムを編成する。

- ② 「生涯学習」「ミュージアム」さらには文化情報等に関する、各々の専門的知見を深めるとともに、これらを横断的に学び、地域社会の文化活性化に資する「実践力」を育むカリキュラムを編成する。
- ③ 学部・学科の特性に鑑み、実践的な能力を育成するため、インタラクティブな教育活動や参加型授業、フィールドワーク等を重視した授業を実施する。
- ④ 「応用能力」の育成を目指し、自主的学習活動を取り入れた教育活動を実施する。

## 地域政策学科

### ディプロマ・ポリシー

学則に定められている本学科の「養成したい人材像」にあるように、人格に優れ専門性をもった教養人を養成するという教育方針のもと、本学科では、卒業時に幅広い教養を身に付け、さらにグローバル化の進展と同時に地域への関心が高まっている中で、地域課題の解決にあたっての高度な専門性を身に付けた人材を養成します。

- ① 地域政策に関する基礎的知識と、その応用面である実践的専門能力を身に付け、地域に関わる諸問題をよく理解し、広い視野から取り組む力を持っている。
- ② 地域をめぐる種々の現代的な課題を多面的に考察し、解決方法を主体的・創造的に考えることができる。
- ③ 地域に対する深い愛着心、高い倫理性、しっかりした社会観察力を身に付け、個人または地域社会の一員として自立した責任ある行動を取る力を持っている。
- ④ 地域の政策課題を発見し、解決方法を提案する力を持っている。

### カリキュラム・ポリシー

本学部・学科の基本方針および「ディプロマ・ポリシー」で明示した学習成果を実現するために、「政治・行政の分野」と「都市・環境の分野」のふたつを柱として、教育課程を編成します。具体的には、法学・政治学・経済学を中心とした社会科学科目や、環境分野・都市分野を中心とした実践的な講義や演習をバランスよく配置した実践型のカリキュラムを編成します。

- ① 地域政策をふたつの分野「政治・行政の分野」と「都市・環境の分野」を学科専攻科目の中からバランスよく学べるように編成する。
- ② 地域が抱える問題解決のデザインを構想し、政策の企画・立案から実施・管理、評価・分析、そして改善・提案までを一貫して学べるように編成する。
- ③ 地域政策に関する専門的知識を体系的に学び、関連諸科学と連携して学習できるよう授業を実施する。
- ④ 全学年を通じて少人数教育を配置し、インタラクティブな教育活動や参加型授業を加味した授業を実施する。

## ヒューマンサービス学科

### ディプロマ・ポリシー

現代社会の福祉課題を発見し、その解決・改善に必要な理念・制度と住民参加の意義を理解し、この実現に必要な社会福祉の役割とあらゆる人々が幸せに生きることをめざす仕組みや支援のあり方を修得した、福祉社会を創造する地域の人材を養成します。

- ① 福祉社会の実現に向けた原理と制度・住民の参加の意義について総合的に理解している。
- ② 地域における福祉課題を多角的に見出し、その改善・解決の方策を考えることができる。
- ③ ボランティアや対人援助の基本や心のケアを実践する態度と技能を身に付けている。
- ④ 卒業論文の作成を通して関連諸科学の知識を生かし、自己と社会の関わりについての認識を深めることができている。

### カリキュラム・ポリシー

本学部・学科の基本方針および「ディプロマ・ポリシー」で明示した学修を実施するために「社会福祉」「臨床心理」「市民参加（ボランティア・市民活動）」の3つを柱としてカリキュラムを編成します。具体的には「社会福祉」の価値・知識・技術を修得し、臨床心理の観点から心のケアについて学び、ボランタ

リズムの思想に基づく NPO 活動などの社会参加への実践的態度を養成するカリキュラムを編成します。

- ① 社会福祉に関する幅広い基礎知識と豊かな人間性を育むため、福祉マネジメント分野科目、福祉臨床心理分野科目、ボランティア・市民活動分野科目を配置する。
- ② 社会福祉に関する専門的知識を体系的に学び、関連諸科学と連携して学習できるようゼミナール以外にも少人数教育を実施する。
- ③ 学科専門科目の基礎的知識の理解に加え、福祉課題に取り組む実践力を身に付けるために、社会福祉や福祉臨床・ボランティア・市民活動に関わる現場での演習・実習の科目を配置する。
- ④ 学生一人ひとりが 4 年間の学習を総合化し、問題解決能力を育成するゼミナール（3 年次）での学習とその成果を集大成する卒業研究（4 年次）を配置する。